

“酒造り” “場づくり” で創る豊かな世の中

宗政酒造株式会社 代表取締役社長 宗政寛

酒造りと観光を“両輪”に「酒創豊世」へ

世界的なワイン品評会 IWC の金賞に輝いた『宗政-15』（清酒部門）、福岡国税局酒類鑑評会で5年連続金賞の『のんのこ』（焼酎部門）、日本初輸入のブルガリアワイン（ワイン部門）、梅酒品評会『梅酒全国制覇』変り種部門優勝の『tete ヴェネツィア』（リキュール部門）……。

宗政酒造では、清酒や焼酎をメインに個性豊かな酒造りとともに観光事業を手掛けている。日本の磁器発祥地・佐賀県有田町に本社を置く宗政酒造は、大型観光施設『有田ポーセリンパーク』内に本社工場を構える。園内は陶磁器を通じて交流のあるドイツの街並みに再現しされ、代表的なバロック建築であるツヴィンガー宮殿を再現した建物内には幕末～明治期の有田焼の逸品が並び。

「“酒創り”を通じて、新しい酒文化や豊かさ、感動を世の中に提供していきます。そして、私たちは新たな発想と行動でお客さまとともにワクワクできる革新的な製品やサービスの創造に挑んでいます」。酒造りや観光事業などを手掛ける宗政酒造の代表取締役社長である宗政寛は、経営理念として掲げる「酒創豊世」の考え方に基づいて、今後の方向性を打ち出す。



1世紀の“空白”を超えて有田で酒造り復活

「清酒『宗政』の特徴は“旨口”、焼酎はみんなで飲んで楽しめるお酒です。高品質・低価格の酒造りにこだわっています」と経営の舵取をする宗政寛は力強く語る。

宗政酒造は、佐賀県西有田町(現有田町)で1985年に設立して製造免許を取得後、当初は伊万里市に建設した工場での酒造りを始めた。焼酎づくりに参入後、日本酒づくりを手掛ける。その後、グループ会社による



有田ポーセリンパーク取得で現在地へ移転して、今日に至る。

一見、若い酒蔵に見えるが、そのルーツは 120 年余もさかのぼる。宗政家の先祖は戦国大名・毛利元就の出身地だった広島県安芸高田市で酒蔵を代々営んでいたが、激動の幕末を経て明治に至る動乱の中で途絶えたという。

地元の公文書は 1895 年の大火で焼失し、広島県酒造組合の保存資料も 1945 年の原爆投下で消滅して、詳細は不明だ。しかし、地元で伝わる話によると、4 軒が協同で酒造りをしており、当時は「宗政へ行く」という言い方もあったという。わずかに残る史料によると、その所在地は安芸高田市美土里町横田 55 番地だった。

かつて先祖が営んでいた「幻の酒蔵」を復興させたのは、宗政寛の父・伸一だった。有田町に隣接する長崎県佐世保市で 1975 年にサニックスを起こした宗政伸一は、創業 10 周年の節目の年に酒造りを復活させたのだ。

先祖伝来の地に足を運んだ経験を持つ宗政寛は、「神楽などの伝統文化が色濃く残る土地でした。山からの湧き水と、実り豊かな田んぼで獲れたお米でお酒をつくっていたそうです」と、いにしへの酒造りに思いを馳せる。



【写真説明】宗政家伝来の地近くにある道の駅『北の関宿 安芸高田』（安芸高田市美土里町横田 331-1）

新たな発想・行動で製品・サービスを革新

3 月『蔵開き』、4 月『リレーマラソン』、GW『春の有田陶器市』、9 月『秋祭り』、11 月『秋の有田陶器市』……。宗政酒造が本社工場を構える有田ポーセリンパークにおいては、季節毎に多彩なイベントが催されている。

1995 年に陶磁器のテーマパークとして誕生した有田ポーセリンパークは今日、入場無料の「公園」スタイルの大型施設として、地域住民や観光客から親しまれている。「お客さまにお越しいただくことが有り難く、十分に楽しんでいただき、思い出や学び、感動なども持ち帰っていただきたいと思います」と宗政寛は謙虚に語る。

年間 40 万人が訪れる有田ポーセリンパークには、観光客とともに宴会や法事で利用する地元客も多い。地域に開かれたイベントとして開催するコンサート





や映画会、お酒やワインを楽しむ会などのイベントに地元の婦人らがおしゃれな装いで「晴れ舞台」に臨む姿も印象的だ。

「お客さまのところへ近づき、お客さまの目線や立場で発想すると、色々な気づきや発見があります」と宗政寛は考える。具体的には、「このような人に飲んでいただきたい」「どのような方々に来て欲しい」などのイメージをもとに販路や集客を考え、製品やサービスを企画していく考え方だ。このような「逆転の発想」は、『バックキャスト思考』とも呼ばれて最近、各界で注目を集める。

2016年の有田焼創業400周年を記念して発売する古代酒も「お酒を地元の有名窯元の焼き物に入れてもらえるためにはどうすべきか」という逆転の発想から始まった。この目標イメージに対して出たアイデアの中から、地元で栽培した古代米を昔の手法で醸造する古代酒づくりが選ばれた。そして、地元の窯元や生産者、関係団体などからの理解と協力を得て、古代酒づくりが実現した。



革新的な酒造り・観光で豊かな世の中へ

「清酒や焼酎の原料をはじめ、食材や物販品はできるかぎり地元産を使っています。地元の方々と一緒になって、有田・佐賀を国内外にアピールしていきたい」（宗政寛）との言葉通り、宗政酒造は地域と共に歩み続ける。

そして、清酒『宗政』や焼酎『のんのこ』などの酒造りや、有田ポーセリンパークを舞台とした観光・集客事業において、「新たな発想と行動でお客さまとともにワクワクできる革新的な製品やサービスの創造」も実を結び始めた。「みんなが豊かになれる世の中を酒造りや場づくりを通じてつくっていきたくと思います」と経営トップである宗政寛は、『酒創豊世』への決意を新たにしている。

